



板橋区立郷土資料館

北区史を考える会

Association of Study on History of Kita-City in Tokyo

会報
第151号

発行 北区史を考える会

〒120-0001 東京都北区赤塚3-3-1

TEL 03-3527-3111

FAX 03-3527-4722

第四七八回 月例研究会 3月16日(土)

板橋区立郷土資料館見学記

—ギャラリートークにも参加—

報告 林 健一

12時半に赤羽駅西口のバス停7番乗り場に会員5人が集合し、成増駅北口行きに乗り、赤塚8丁目で降りて少し歩き、郷土資料館に13時半頃着く。館の玄関前には江戸時代と思われる大砲4門が展示されており、てつきり高島秋帆に關わるものと思つたが、船に据えられていたものだそうだった。

この資料館は昭和47年に開館。1階は常設展示室、2階は企画展示室となっている。

まず1階の展示を見て回る。旧石器時代から近現代に至る板橋の歴史がわかるようになってきているが、「中仙道板橋宿」や「幕末の砲術家・高島秋帆と西洋帆術」の展示は特に板橋区らしいもので、「甲冑刀剣類」としては金箔押仏二枚胴具足(江戸時代後期)が展示されていて、金色に輝き



見ごたえがあった。その他「江戸・明治期の古文書」、「民具」、「戦時中の生活や学童疎開」、「煎茶道」、「伝統工芸」、「人類学者・石田收藏の北方民族調査」などの收藏・展示資料がある。以前から関心のあつた高島秋帆の展示は興味深かった。2階の特別展では、このときは「いたばしの富士山信仰—富士講用具と旅した人びと—」の展示が行われていた。

板橋や江戸近郊の富士講や富士

塚に関する説明パネルや、富士講の用具が展示されている。また富士吉田地域の御師や宿坊の解説や板橋宿などからの奉納物もあり、国指定重要有形民俗文化財に指定されている「ふじさんミュージアム」所蔵の御師、山小屋への奉納物や用具など見ることができた。

1階、2階の展示を見た後、中庭に行く。江戸時代後期の古民家(旧田中家住宅)には、この時期らしく雛人形が飾られていた。また4千本の大根が入るといふ大きなたくあん漬物樽もある。また敷地内には板橋宿で栄えた貸座席「新藤楼」の玄関が移築されている。

15時から特別展のギャラリートークがあるというので、しばらく待つて参加する。館の学芸員により、2階の展示を順に見ながら詳しい解説を聞く。やはり説明を聞きながら展示物を見ると、理解が深まる。15時半頃に終了。

なお資料館に隣接して赤塚城址と赤塚溜池公園があるが、以前ウォーキングでこのあたりを歩き、高島秋帆が幕末に西洋砲術の訓練をした徳丸が原からこの城址に来て公園で休憩したことを思い出しながら、帰途に着く。